

第六章

熊本赤十字病院

での日々



1975年

大忙しの生活を送っていた
当時の熊本赤十字病院の
医師たち…

当時の忙しさを物語る面白い
エピソードがあります

熊本赤十字病院整形外科メンバー



高橋修一朗先生



平良誠先生



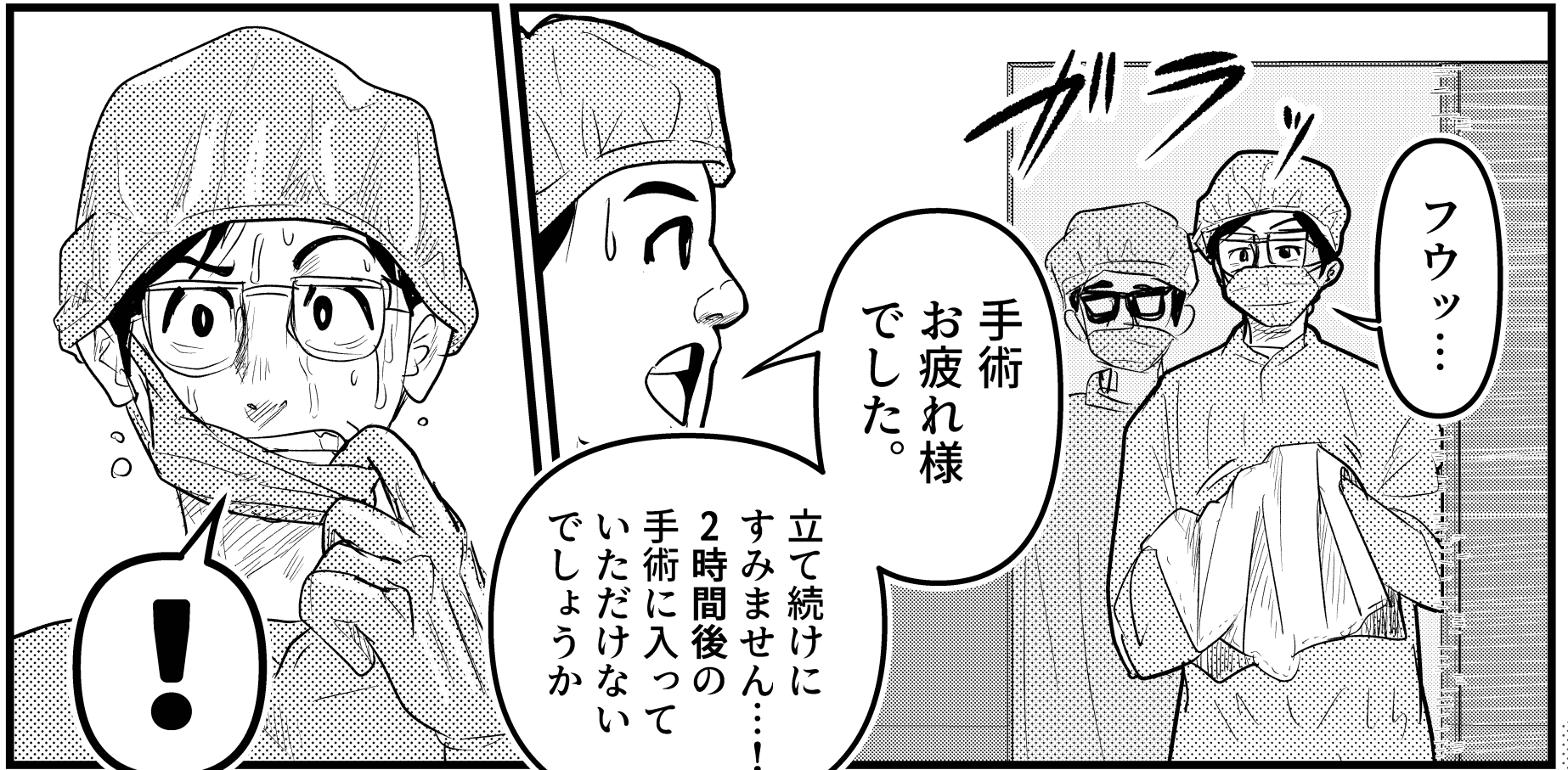
中島英親先生



中根惟武先生







時にはピリつく
こともありましたが…

気づけばチームとして
みんな仲良くなって
いたそうです。

診察や手術だけでなく
リハビリにもこだわる
弘之は、ある台詞を繰り返し
熊本赤十字病院のスタッフ
全員に伝えていました―

いいですか、先生方、

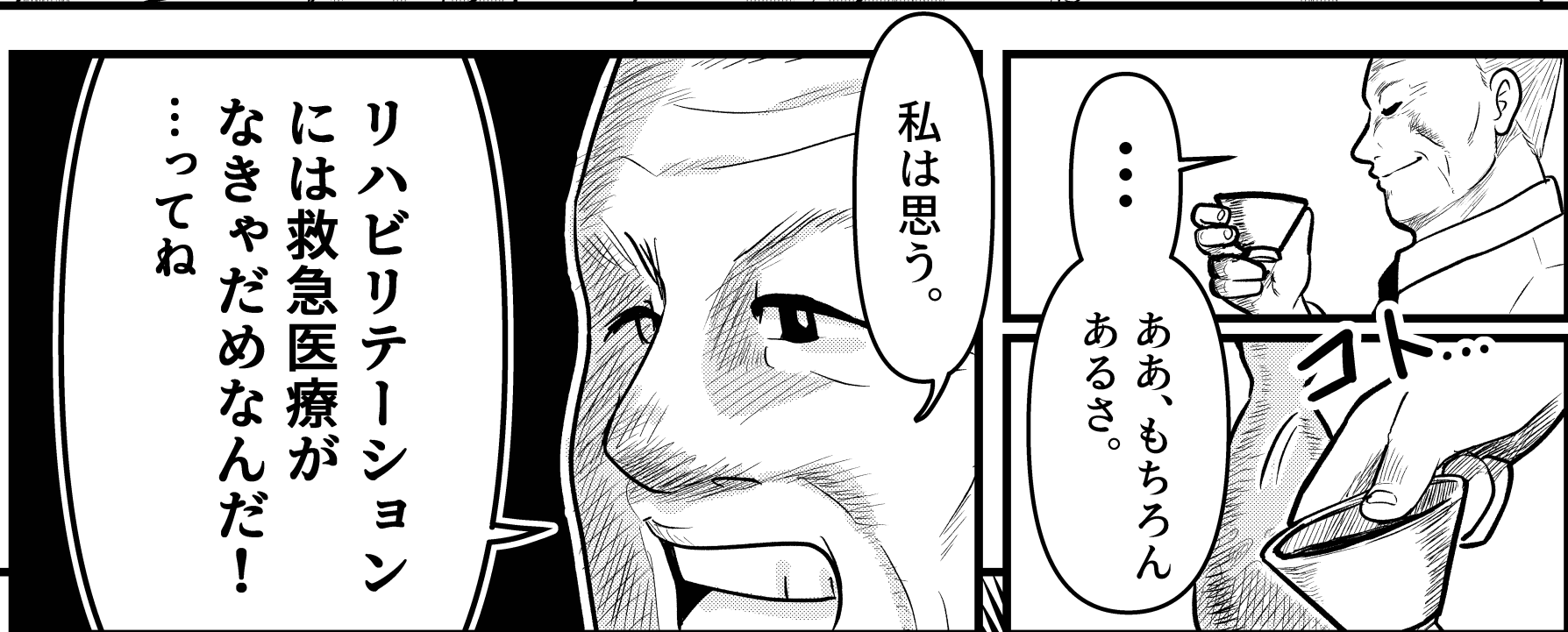
チーム全員で患者さんの症状や生活
習慣の改善、心のケアを行うことで
早期復帰が果たせる！
これを常に心に留めて
おいてくれ！

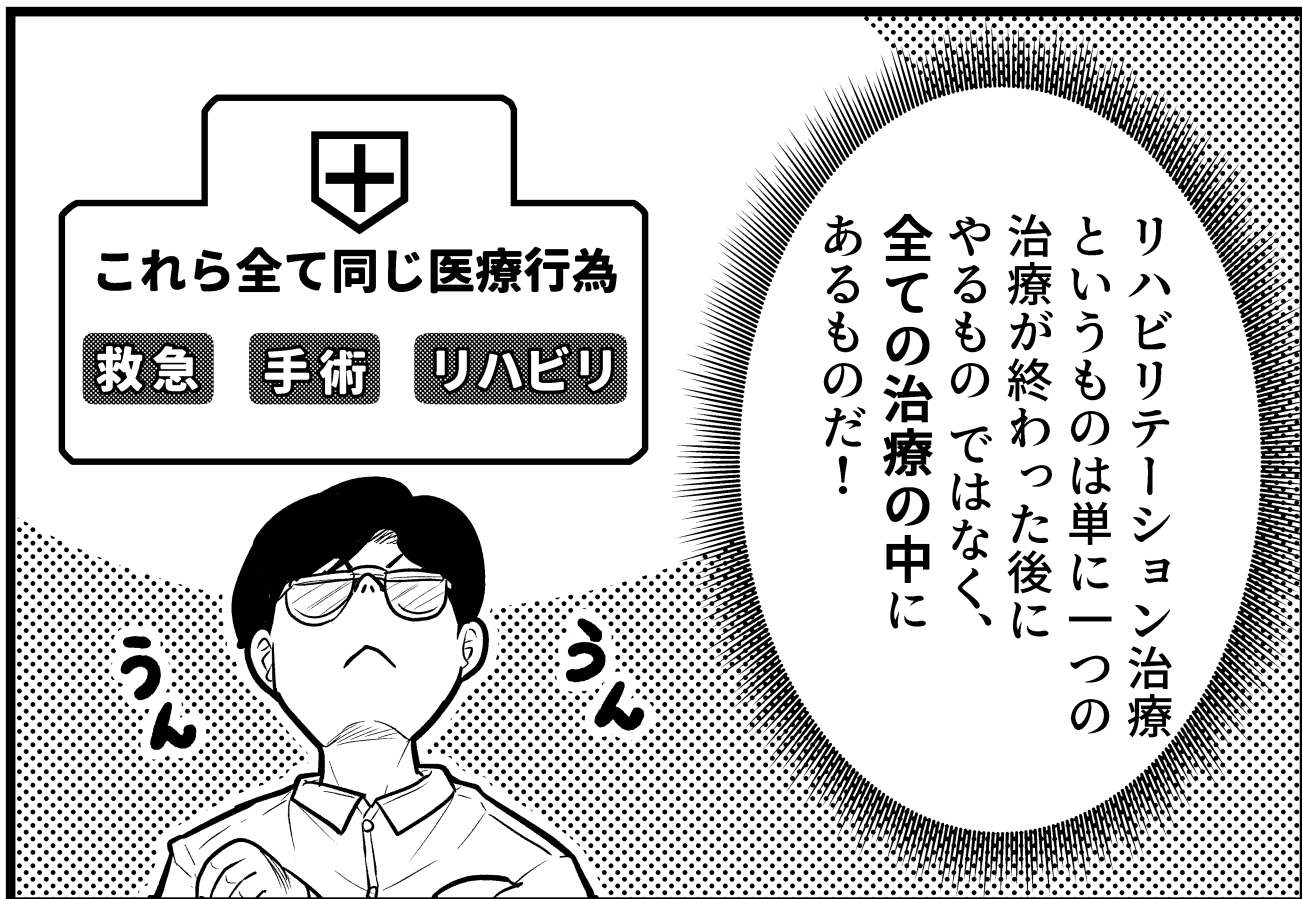
リハビリは
「チーム医療」なんだ！

はいっ！！











澤村先生：
先生は私の未来が
見えているみたいですね

ハハハハ！

そうかもね！



カニカ

あっ…!!

※詳しくは 第五章
「熊本機能病院誕生のヒント」
を見てね！



救急から
リハビリまで
一貫して行える…

そんな病院を…
私は作ります！

また弘之の新たな
挑戦が始まりました。



作者

ノゾエ タカフミ
NOZOETAKAFUMI

熊本県を中心に活動する
漫画家・イラストレーター。

魅力ある歴史を伝える「漫画」や
親しみやすい「キャラクター」
など：幅広い分野で制作活動を行
っております。

子どもが2024年1月に
生まれ、パパとしても現在
活躍中。



【ノゾエ タカフミwebサイト】

<https://www.nozotown.com/>